

第3回「温故知新」

つぼみの会 重信 通子さん 根岸 ゆみ子さん

河野 ひろ子さん 橋本 まり子さん

継続することの大切さについて聞いてみました！

大正大学と大正大学の学生が、地域の方と連携して活動をするために必要なことは何かを探る連載「**おうだい3meets**」。第3回は、これまでの鴨台盆踊りでのエピソードやそれを通じての大正大学の印象など、これまで11年間鴨台盆踊りにて着付けや踊り指導など、盆踊りを支えてくださっている巣鴨の踊りつぼみの会の皆様にお話をうかがってきました。

お話しいただいた人



重信さん

重信 通子さん

つぼみの会 代表

趣味は盆踊りやコーラス。麻雀教室にも通っている。



根岸さん

根岸 ゆみ子さん

つぼみの会 会場設営担当

趣味は盆踊り、コーラス。体を動かす事もすごく好きで長年スポーツジムに通っている。



河野さん

河野 ひろ子さん

つぼみの会 書記担当

趣味は盆踊り。盆踊りが大好きで20年くらいやっている。



橋本さん

橋本 まり子さん

つぼみの会 会計担当

趣味はもちろん盆踊りで、最近は絵手紙をしている。

インタビューー



五十嵐

五十嵐 泰一

仏教学部4年の大学生

趣味は自転車で旅、読書。

1. つぼみの会と盆踊りの関係



五十嵐

盆踊りをはじめたきっかけを教えてください。

私は巢鴨地藏通り商店街の盆踊りにずっと参加していたのですが、そこで踊ることが楽しくて、盆踊りが好きになっていました。また坂東扇太恵先生が踊りを教えてくださるということで、盆踊り好きが集まった花の会というのも、もともとあったんです。つぼみの会は、それとは別に後から結成されました。



重信さん

そのような経緯でできたのですね。なぜつぼみの会を別に作ったのですか？



五十嵐

盆踊りをするためにつぼみの会を作りました。花の会は30年くらい続いている歴史ある組織なのですが盆踊り以外の活動も多くしていました。あとはもう少し会員を増やしたいなということと、盆踊りに特化した会があっても良いのではないかとということでつぼみの会が誕生しました。



河野さん



元々皆さんは花の会の頃から参加されていたのですか？



私は違います。つぼみの会に入って10年が経ちますが昔は仕事の終わりに盆踊りに参加したりする程度でした。つぼみの会の参加した理由は、坂東扇太恵先生がこのような踊りの練習をしていることを知って、一つでも多くの曲を踊れるようになりたいと思い参加しました。



最初は花の会から、「つぼみの会のメンバーを募りますので皆さん入ってください」というものを頂きました。花の会さんが一生懸命みんなを誘ったりしてくれたおかげで始まったのが盆踊りに特化したつぼみの会です。なので、本当に盆踊りのための会です。



つぼみの会へのインタビューの様子

2. オンライン盆踊り



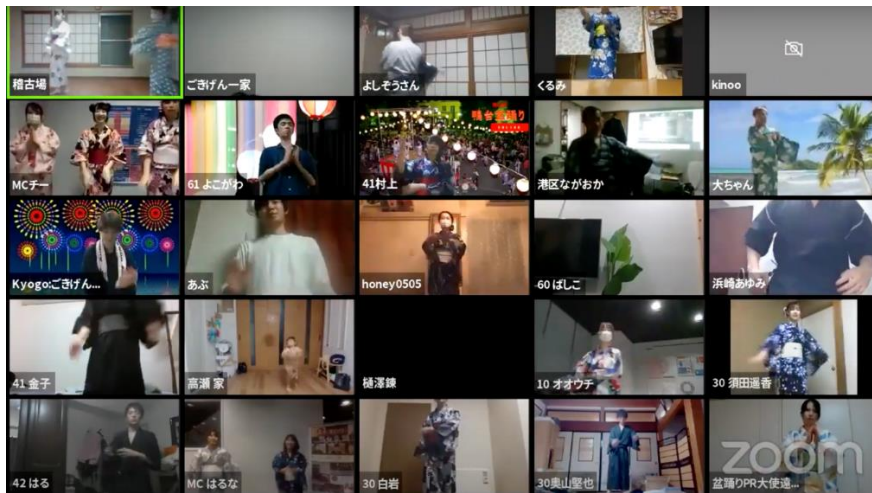
なるほど、つぼみの会誕生はそのような秘話があったのですね。次につぼみの会というのはどのような活動をされているのですか？



主な活動内容は月に一回練習がありまして、いろいろな曲を使って「今月は何を練習しましょう」とか言いながらやっていました。ところが、今はコロナ禍のため、ここ1、2年ぐらいお稽古ができてないです。



そうだったのですね。私たちが大正大学の鴨台盆踊りでは、去年はオンラインで開催したのですが、対面での踊りとオンラインで踊るのとは、やはり違いやもどかしさなどは感じましたか？



第10回鴨台盆踊りの様子 (2020年)



ありますね。やはり、みんなで揃って一つの檜を中心に囲んで踊りたかったのですが、オンラインで自宅から参加だと檜を囲んで踊る盆踊りの雰囲気とは異なったものになってしまって難しかったです。



根岸さん

みんなで踊っている感じをつかむのがとても難しかったですよね。私たちは対面でやっている盆踊りの雰囲気を出すために、固定したカメラの周りをただグルグル回って踊っていました。人が途切れたりして、櫓の感じを出せたかというのが特に不安でしたね。



重信さん

不安でしたね。なので、これで良いのかと思いながら踊っている感が強かったです。周りがどのような雰囲気になっているかが、わかりにくかったなと思いましたね。



五十嵐

ありがとうございます。画面越しでも対面の盆踊りを再現するために、奮闘されていたんですね。実際、オンライン盆踊りの映像を見てどのように思われましたか？



橋本さん

そうですね。オンラインで踊ったものを後日見せてもらったのですが、本当にすごいと思いました。小さい子も年配の方もみんな浴衣姿で、和気藹々できる対面の雰囲気が出ていたなと、私は感じましたね。



重信さん

あとは、**去年のオンライン盆踊りはマスコミにも取り上げられていた**ので、**話題性があった**と思います。



河野さん

大正大学の盆踊りが、オンライン盆踊りという新たなステップを駆け上った感じで、とても挑戦的で良かったと思います。



五十嵐

ありがとうございます。昨年の第10回鴨台盆踊りは初めての試みばかりで、いろいろと探りながらやっていました。そう言っただけだと、オンラインでも開催することができてよかったなと感じました。



第10回鴨台盆踊りの稽古場からの様子 (2020年)

3. 地域のかたと鴨台盆踊り



五十嵐

お話変わりますが、元々2011年から始まった盆踊りに皆様は参加されていたのですか？



河野さん

参加していました。元々塩入法道先生（仏教学部教授）や君島菜菜先生（現在総合学修支援部部長）が発案してくださって、今と同じ授業の一環で東北の復興の意味合いで2011年から始まったんですよ。実は戦前からやっていたそうですよ。ただ2011年当初は仏教の法要を取り囲みながら盆踊りをされていたので、今の盆踊りとは全く違う雰囲気でしたね。



重信さん

第1回は塩入先生がお施餓鬼をなさって、その周りをみんなで踊ったんですよ。なので最初は櫓もなかったんです。でもこの第1回があったから、盆踊りというのはお施餓鬼と関係があるということをお勉強をさせてもらいました。



第1回鴨台盆踊り（みたま祭）の様子（2011年）



五十嵐

そうだったんですね。今の鴨台盆踊りと、始まった当初では、大きく異なっていらっしゃるんですね。昔と今では、試行錯誤を重ねて常に変化していますが、その点についてはいかがですか？



重信さん

そうですね。今は、**学生さんたちが主体となって運営をされていて、確かに昔と違う形ですね。**しかし、**巢鴨地蔵通り商店街の巢鴨納涼盆踊り大会に比べると、新しい盆踊りだなと思います。**私たちが行っている**巢鴨納涼盆踊り大会はどちらかという昔ながらの古い盆踊りなんです。**鴨台盆踊りは**J-POP をアレンジした盆踊りにも挑戦しているので、その場その場で合わせたやり方があるんじゃないかなと思っています。**



第9回鴨台盆踊りの様子 (2019年)



五十嵐

なるほど 鴨台盆踊りと巣鴨納涼盆踊り大会とはそういった違いがあるんですね。



河野さん

だからこそ、私は、鴨台盆踊りに関わらず、学生さんにたくさん踊っていただきたいですね。浴衣を着ている方に踊っていただければ、もっと大学生の盆踊りという感じに、鴨台盆踊りは盛り上がると思いますよ。



根岸さん

しかも、大正大学の盆踊りがオンライン盆踊りとして初めてで、メディアにも取り上げられていて挑戦的な盆踊りですからね。だからこそ、もっと学生がもっと盛り上がる盆踊りになってほしいなと思います。



河野さん

最初の頃は、私たちと同年代の人ばかり踊っていて、寂しかったです。今は踊ってくださる方は増えましたけど、やはり学生さんはもっともっと活き活き踊ってくださるのでいいですね。



本当、昔の時代から鴨台盆踊りをずっと見てきているので、どんどん変化していくのがおもしろいですね。最近はUSAのダンスを取り入れた盆踊りを踊ったんですけども、あれもまた1つの盆踊りの形ですよ。そういうふうに、いろいろな人が踊れる盆踊りこそが、本来の盆踊りなのだと感じました。



そうだったんですね。そう考えていくと、やはり、学生が主体になっているので、第1回と違いますね。今後どのような、鴨台盆踊りになってほしいと思いますか？



昔のもの、新しいものを両方入れて欲しいですね。どんどん新しいものばかりにならないで、古典の物も入れていってという方がいいですよ。



つまりは温故知新のように古き伝統を残しながら新しいものを取り入れていくことが必要なんですね。



そういったやり方も大切だと思います。USAとかフォーチュンクッキーなどの新しい曲を取り入れていて面白いですね。



それも1つの盆踊りの形ですよ。その時代にある特徴なんだろうけれども、最初から受け継がれてきたものも大切にしたいな、と思います。



そのような鴨台盆踊りを通じてより一層地域の人々に根付いた盆踊りにしていきたいと思います。
本日の取材は以上になります。ありがとうございました。

私がつぼみの会の取材を通して感じたことは、伝統というのは、ただ古いものを残せばいいということではないということです。よく我々は、「昔ながら」という言葉に囚われてしまい、時代にそぐわない形でも、そのやり方を守り続けようとしています。しかし、それは続かなければ意味がないのです。やり方を守り続けても、受け継がなければ、途絶えてしまっは元も子もないのです。だからこそ、時代にあった新しいものを取り入れながら、古き良きものは残していく。まさに「温故知新」という言葉こそが、伝統なんだということ、この取材を通して気づかせていただきました。

記事 仏教学部仏教学科仏教学コース4年 五十嵐 泰一

お話を聞いた日 2021年6月17日